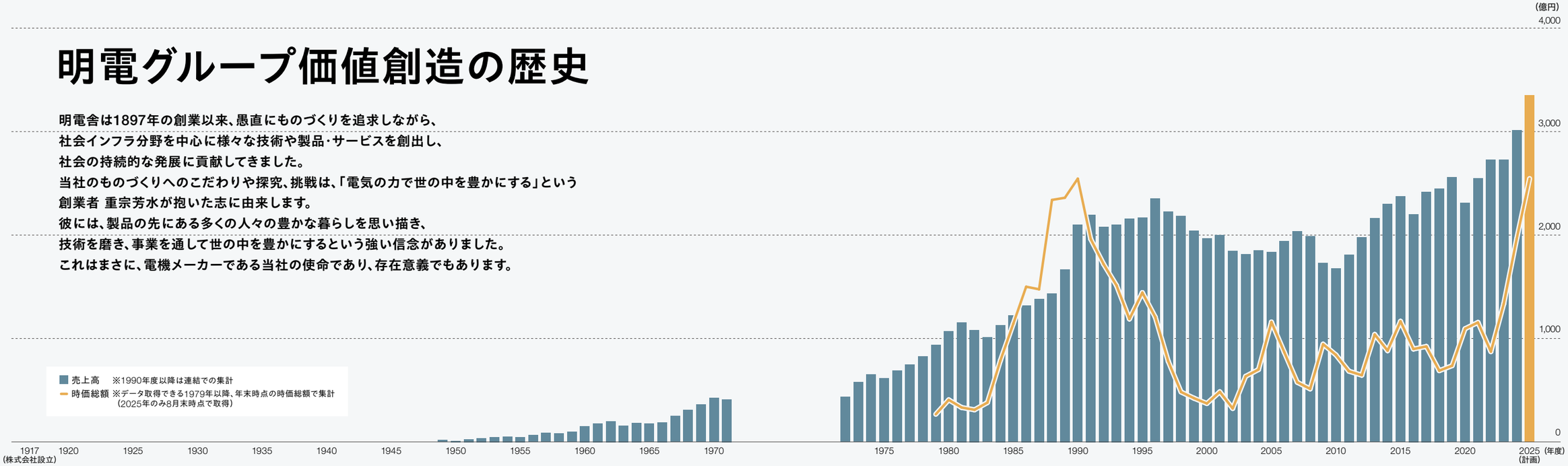
明電グループ価値創造の歴史

**明電舎は1897年の創業以来、愚直にものづくりを追求しながら、
社会インフラ分野を中心に様々な技術や製品・サービスを創出し、
社会の持続的な発展に貢献してきました。
当社のものづくりへのこだわりや探究、挑戦は、「電気の力で世の中を豊かにする」という
創業者 重宗芳水が抱いた志に由来します。
彼には、製品の先にある多くの人々の豊かな暮らしを思い描き、
技術を磨き、事業を通して世の中を豊かにするという強い信念がありました。
これはまさに、電機メーカーである当社の使命であり、存在意義でもあります。**



創業～1960年代

電力・社会インフラの普及への貢献

1897年、まだ日本が産業機器の多くを外国製品に頼っていた時代、重宗芳水が町工場として明電舎を創業しました。1905年には独自の「誘導電動機設計法」を考案し、翌年からモーター生産を本格化しました。以降、電動機・発電機・変圧器などを製造し、産業機器や電力インフラの発展に貢献しました。

1970年代～1990年代

産業の進歩・高度化を支える

1970年代には社会風潮の変化に伴い、量的経営から質的経営へ転換し、重電機器メーカーとして体質改善を図りました。電力用酸化亜鉛避雷器の開発や、日本の自動車産業の飛躍を支えたダイナモメータ、鉄道・水処理分野向け遠隔監視装置など、納入実績を着実に伸ばしたことにより、産業発展と人々の生活向上に貢献し、1980年代には時価総額も大幅に拡大しました。

2000年代～2010年代

日本の明電舎から世界のMEIDENへ

国内で厳しい事業環境が続く中、将来的な事業拡大を確固たるものにすべく、海外事業の発展に注力しました。1960年代から拠点を構えていた東南アジアを中心に事業運営の現地化を図る他、2010年代にはM&Aによりインド事業、ドイツ事業に参入し、2020年には北米にも拠点を構え、新たなエリアへと事業を拡大しました。

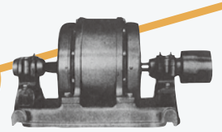
2020年代以降・これから

環境・地域ソリューションで安心・安全な社会づくりを

世界的な環境保護・脱炭素化の流れの中、明電グループは再エネの系統連系技術や真空技術を応用した環境対応製品、モビリティの電動化に資するモーター・インバーター、自治体や企業と連携した地域ソリューションの展開などを通じて、持続可能で安心・安全な地域社会の実現に貢献しています。

「より豊かな未来をひらく」明電グループの価値創出事例

1901



初めて製作した1HP三相誘導電動機。
「モートルの明電」の始まり。

1964

東海道新幹線の開通を支えた、国内最大級の30MVA移動用スコット結線変圧器。

1976

国内最大級の自動車騒音試験用大形無響室を日本自動車研究所に納入。日本の自動車産業の発展に大きく貢献。

1994

40年以上にわたる真空遮断器の製造で蓄積したノウハウを活用し、真空コンデンサを開発。半導体製造装置等の電源メーカーへ納入開始。

2004

明電舎独自の画像解析技術を用いた鉄道事業者向け架線検測装置を開発。架線の摩耗状況をリアルタイムで検測。

2023

モーター、インバーター、ギアー体型のEV駆動ユニット(MEIDEN e-Axle)の販売活動開始。軽量・小型・低背化で、魅力ある車づくりと脱炭素社会に貢献。